

令和 6 年度第 2 回柴田町新図書館建設検討委員会 議事概要

日時：2024/08/30 14:00～16:05

場所：保健センター4 階 多目的ホール

出席者：平岡 善浩、大槻 浩子、熊谷 一彦、金城 幸子、羽賀 幸子、
添田 棕、田中 亮、佐藤 祥多、玉渕 博之（敬称略）
男澤 勝由（欠）

1 開会

2 開会のあいさつ

平岡委員長より

4 議事

確認事項

事務局より、前回の議事より要点を説明。

報告事項

1) 第2回、第3回町民ワークショップについて（説明：株式会社山下設計東北支社）

○平岡委員長

ご説明ありがとうございました。では今ご説明いただきました内容につきまして、ご意見ですとか、ご質問ありましたらお願いいたします。

○大槻副委員長

私自身はワークショップにも参加しましたがけれども、資料の機能関係図の案を見たときに、全部網羅されていると思って、非常に感心しました。特にまちと人と繋がる交流所となるエントランス部分がすごく広くとられているところが、いいなと思いました。特に今の図書館は、入口から中がよく見えなくて、入りづらい部分もあります。何となく面白そうだなとか、何やっているんだろうなみたいに本に興味がない人でも入りやすいような、いわゆる掴みみたいなものがしっかりあるなと思ったので、素晴らしいなというふうに思いました。

○平岡委員長

ありがとうございます。報告事項で説明いただいた資料1、2の内容が後程説明いただく資料3にしっかりと反映されているというご意見でした。

実際にワークショップに参加された大槻さんとしてもワークショップの雰囲気

盛り込まれていると思いますか。

○大槻副委員長

そう思います。

○平岡委員長

私も資料を拝見していて、第2回と第3回ワークショップで同じグループで実施しているようです。ですので、資料1と資料2を並べてみてみるというのも一つの手だと思います。例えばA班ですと、柴田の歴史というところを施設内と外の施設との連携ですとか、図書館利用者の変化や成長というところを、スペースの多目的利用化という方法で補おうとしているところなど、うまく2回目から意見がつながって3回目の面子を使った機能関係図を考えるとところにつながっていると考えます。B班のところは、「私の秘密基地」という大きいフレーズがありますけれども、面子の数が多いところを見ましても、それぞれの個人、パーソナルなスペースとか、いろんなところを選択できるとか、選択肢が多いということが特徴だと思います。開架エリアというところの中に面子が多く含まれていますけれども、それも1つの考えですし、外部空間も今後話が出てくると思いますけれども、この図書館周辺のエリアも含めて、いろんな人たちが自分の居場所を選択できるようにしていきたいというような見方をしています。CとかDとかEとかについても、形としてはこのようにできていますが、その中にあるいろんなお考えとか、イメージとかがですねそれぞれ出てきているような感じがしますね。

実際参加された佐藤さんとかどうですか。

○佐藤委員

私も資料3の話になってしまいますが、機能関係図を見ると機能がごちゃごちゃと入っているように思いました。以前蔵書も増やしていくとお話がありましたが、増やすことができるのかなと思いました。

○平岡委員長

今のところ蔵書数や延床面積などを考えずにワークショップのアイデアを具体化して盛り込まれている状況ですが、資料3の図を実際に見てみると本当に収まるのか心配があるというご意見でした。

○金城委員

私はワークショップの第3回に参加させていただいて、いろいろな方のご意見を聞けて、楽しく参加させていただきました。どのグループからもその子供の読書環境に関しての思いだったりとか、人と交流するっていうことと、郷土資料に関して、継承していきたいっていうところが、意見として多くありました。機能関係図

の方の回遊導線というところの、図書館のエントランスの向きが、ここに表れていると思います。並行して周辺の人を集めていこうっていうところで、社会実験も行われていて、そちらにも関わらせていただいているんですけれども、この図で見る限り、今の既存の建物だったりとかイベント行っているところとの繋がりが、うまく関係性があり、人が流れるように考えてくださっているんだなっていうところに期待が高まります。エントランスと伝承館の裏側にある部分がどんなふうにうまくつながるのかなっていうところも楽しみです。

○平岡委員長

今度行われる第４回ワークショップは、外部空間がテーマになるんでしたよね。

○委託業者

第４回ワークショップは、外部空間の話をメインに皆さんにご意見いただきたいと思っております。それとあわせて、今回この委員会の中でお出ししている機能関係図案についてはワークショップで皆さんからいただいたご意見をもとにまとめたものですので、外部空間を考えると一緒にご提示させていただいて、フィードバックというような形で、こちらについてもワークショップでご意見いただけるとよいのではないかと思います。

○平岡委員長

外部空間なので、当然その敷地内のお庭とか駐車場とかでしょうけど、しばたの郷土館、隣接のふるさと文化伝承館とか、その辺との連携とか役割分担とか、そういったところもワークショップの話題としては入ってくるってことですか。

○委託業者

そうですね。そういった意見も、ぜひワークショップの中で出していただけるといいのかなと思います。また、周辺施設との連携をはじめとした運用に関する部分については特に、検討委員会の場でもご意見をいただければと考えております。

○添田委員

どの班も子どもを中心に図書館を利用してもらえるようなアイデアがメインで書かれていると思ったのと、学生側の意見として学習スペースという意見がどのグループにも書かれていますが、静かに勉強できるスペースがあるのはやっぱり利用したいなと思う面の１つでもあります。声を出せるスペースにも学習スペースがあると、聞きたいことがあったときにすぐ聞ける、声の大きさを気にしないで聞けるっていうスペースもあると学生がグループで利用するのにいいと思いました。

○羽賀委員

私はワークショップには参加してないんですけども、いろいろなグループの意見を見させていただきました。皆さんのいろんな要望をすべて盛り込むとなると、場所的に難しいところもあるかと思いますが、静かにするスペースと、おしゃべりしてもいいスペースを分けて考えているC班の寄り添う図書館っていうところがとても共感できました。エントランスは、観光客もふらっと寄り道で入れて町のイベントいろいろな情報があるエントランスがあったらいいなとは思いました。また、何か飲み物を飲みながら気軽におしゃべりできるのであればいいかなと思いました。あと、子どもの読み聞かせや児童書のスペースと、一般のスペースは間を設けて、声とかが漏れないようにする必要があると思います。各年代で使い方はさまざまとおもいますが、どの年代も気軽に使える場所であっていいなと思います。外のスペースについても子どもが遊べるスペースがあって、中と外をいたりきたりできるようなスペースだったらいいのかなと思います。いろいろと欲張ってしまいましたけれども、柴田町は桜を観光の目玉にしているっていうことでもありますので、詳しく紹介できるようなコーナーもあったらいいのかなと思います。住民と協働して作るスペースについても意見が多かったので、図書館の司書と住民とで、いろいろ話し合っ、みんなが使いやすいっていう図書館ができたらいいなかなと思いました。

○熊谷委員

第2回の報告書にあるキャッチフレーズを見たときに、やはり交流、人と人との繋がりにっていうのを、皆さん望んでいらっしゃるのかなと思います。それとあわせて、図の方を見させていただいて、図書館の本来の機能だったり、それに加えて多目的なイベントスペース、あとは屋外空間も含めたいろんな繋がりにっていうところをいろいろと考えられているんだなと思いました。ですから、図書館プラスコミセン的な、そういったところの機能もあわせ持つような新しいタイプの図書館を求めているのかなと思う反面、あまり求めすぎると、あれもこれも詰め込んでしまい、どこかが縮小して、どっちつかずになってしまうような恐れはないのかなと感じました。もしかすると、今後いろんな要望がある中で、時には機能を削るっていうところも必要になってくるかと思うんですけども、皆さん、どういったところを優先していくとかというものをしっかり検討する必要があるのかなと思いました。

○平岡委員長

5グループからさまざまな意見が出てきたところに、その優先順位やバランスをどうするかというのは、これからの課題だと思います。あとは、隣接するしばたの郷土館とかもありますので、基本的にどのように機能を役割分担していくところがあるかだと思います。

事務局にお伺いしますが、今年度中にふるさと文化伝承館の設計まで終わらせると予定でよろしかったでしょうか。タイミング的に今こっちで進めていることと、

ふるさと文化伝承館の設計を進めることと、どのようにお互い情報共有して進めていくかということがあると思いますがいかがでしょうか。

○事務局

しばたの郷土館の設計については、今年度中に設計の契約を締結する予定です。現在、契約に向けて改修工事の方向性や内容等を庁舎内で検討しているところでございます。

○平岡委員長

そうすると、例えば先ほど隣の敷地とか建物との機能分担をするときに、検討委員会の議論が先行するイメージですかね。

○大槻副委員長

図書館建設なので、検討委員会では図書館のことをひたすら考えていましたが、実は柴田町には多くの郷土資料あります。上川名の貝塚など縄文時代のあたりから話をしだすと、2000年前までのものがあることになります。しばたの郷土館には、図書館が間借りしているふるさと文化伝承館、と資料展示館である思源閣と、その隣にある齋藤博記念文庫、茶室、和室、産産業展示館で建物だけでも6つもあります。齋藤博記念文庫といわれてもどのようなものがあるのかわからないので、私も外から覗いてみたりしていますが、要するに有効利用できていないという意味です。そういう意味で、柴田町の文化財について、しばたの郷土館の職員がまとめて図書館のエントランスで、思源閣でやっていますよとか、ふるさと文化伝承館でやりますよとか、そういったアナウンスをすることで、周辺エリアとの繋がりができて、しばたの郷土館の有効活用につながると思います。

○平岡委員長

先ほど私ふるさと文化伝承館だけの話でこう言いましたけども、今大槻さんおっしゃった通り、しばたの郷土館の6棟の複合的なものなので、利用も含めて、そういったところを全体として見なくてははいけませんね。

今度設計発注するのはこのふるさと文化伝承館の部分だけですか。

○事務局

ふるさと文化伝承館だけではなく、しばたの郷土館全体の設計を契約する予定でございます。

○田中委員

規模とか何も決まってない段階でのお話ですから、いろんなご意見が出て、当然だと思います。それだけ、新しい図書館への期待が大きいんだと思います。先ほど

熊谷委員がおっしゃったように、本来、この中から図書館がやるべきこと、図書館でしかできないことを選んでやっていくということになると思います。また、今大槻副委員長からお話もあった通り、いわゆる郷土館であるとかそういうところとどう連携をして、それぞれに持っている資源、それをどのように生かしていくのかというのは郷土館と図書館の間に話し合いをしていくことですから、そこは何とかなるはずだと思います。例えば、しばたの郷土館で、展示するときに図書館の方では関連した資料を使って展示をして、お互いに共鳴しあう活動にしていければいいと思います。

宮城県図書館の場合ですと、宮城県図書館と東北歴史博物館、宮城県美術館の3つで連携しています。例えば東北歴史博物館で新たに展示をやりますとなった場合には、同じテーマの資料を県図書館で調べられるような企画をします。宮城県美術館では誰々の展示をやりますとなったときにはその画集を図書館に並べるとか、お互いにそういう形で共鳴しながらやっています。これは意外と簡単にできるので、図書館としばたの郷土館で話し合いをしてやっていけることだと思います。

あと皆さんからお話があったのは子どもが中心。そして、幅広い世代の利用ってというのがいろいろと意見の中で出てきていたので、これは図書館にいる人間からしますと、非常に理想的な図書館ではあるんですが非常に難しいところでもあります。先ほどお話がありましたが、声が出せるエリアと静かにして欲しいエリアを何らかの形でゾーニングはするけども、一つにまとめてあればというご意見もありました。これもなかなか難しいと思います。

昔大学図書館というのはキャレルデスクといって1人1つの机が並んでいて、そこで静粛に勉強をしていました。今の大学図書館は二、三人で集まってテーブルを囲んで勉強するという席がどんどん増えています。大学の図書館の方に聞いたんですが、大学図書館ではそれが1つムーブメントになって全国の大学図書館に波及しています。ところがこれが当たり前だと学生が思うと、そのしわ寄せは公共図書館に行ってしまう。それは公共図書館の人に申し訳ないという話を聞かされたことがあります。今後の考え方として、そのような共同で何かをするテーブル、椅子を設ける。そこはしゃべってもいいというエリアと、キャレルデスクを並べてここは静かにしてくださいという、相反するようなゾーンを、1つの図書館の中で作っていかねばいけない時代ではないかと、見せていただきながら思いました。

○玉淵委員

地域の方々からこのように意見たくさん出てくることは本当にいいことですし、これに対してどうこうということは全くありません。今後ここから取捨選択はされていくとは思いますが、その前に、この図書館が全体としての雰囲気はどこに置くのかなというのは気になっています。いまワークショップでの議論で、色々な方とつながったり、話し合いができたり、情報を共有できるような場が欲しいとい

う意見が多く出ている中で、新しくできる図書館にそういう場がないというのは、ワークショップなどの議論の流れで言うと思うのかなと思います。賑わいのある場をいかに創出していく一方で、図書館の機能として情報を得るために静かに、厳粛にする場所でもあるわけですが、その相反するものをどう取り込んでいくのかを考えていく必要があります。

話してもいい空間と、個別に少人数でもいいのですが、会議室みたいなチームで創造する、あるいは何かを創出するというような場の設定、また、利用者の年齢層ですが、子どもからお年寄りまで利用します。今の時代はどちらかというとお年寄りの方が多いですが、お年寄りの中には足がないから来られないという人もいます。劇場業界では、来られない人を逆にどう取り込むかということがよく言われます。そういうことに目を向けていくと、蔵書数などの機能が落ちることがあるとは思いますが、そこはネットワークとかそういうものでフォローしていくことを考える必要があります。

あと最後に皆さんからの話からも出ましたが、図書館を建設するゾーンは、観光も意識して人を呼び込む場所だと思いますので、観光と図書館を結び付けて、人が気軽に入ってこられるように、機能が顕在化していて、点ではなくて線で繋がっていきえるようなゾーンとして、全体で人を引っ張ってこられるような仕立てになったら綺麗だなと思います。仙南圏域ではこういう場所はないと思うので、期待しています。

○平岡委員長

しばたの郷土館とかのところも含めてゾーンで考えるということですね。確かにおっしゃった通り柴田町あるいは大河原とかも含めて、この近辺のポータルの場所になりますね。

一通り委員の皆さまからご意見をいただきました。次の議題に入りたいんですけどその前に私の方からも一言ですね、意見を述べさせていただきます。資料2の方の面子を使ったワークショップの結果のところ、それぞれABCDEの5チームのいろんな面白いポイントがあるなと思って見ておりました。

例えばA班は、多目的利用化というところでもありますけれども、これは空間のフレキシビリティの話だと思います。その時にフレキシブルに使えるっていう空間の話と、あとは時間的に5年後10年後20年後どんどんフレキシブルに変えられるかっていう変化のことと、そういうふうなところでのフレキシビリティ、変化・成長、それがその時に変化できるとか、時間をかけて変化成長できるっていう視点がありました。後世代の話がいろいろ出ておりますけれども、このグループが割と面白いなと言ったのは、多世代とか世代が分断されているものじゃなくて連続していくものだっていう認識がありそうなので、乳幼児とか子どもとかあるいは小中学生のものが、またそれを時間がたてば次の世代次の世代になっていくので、世代はそれぞれに見るっていうのが必要ですが、連続しているものだと見るようなソフト的

な考えも必要なんだなっていうのがこのグループの考え方だと思います。

B班は、先ほど申し上げました通り、いろんな方が選択することができるという提案でした。これは大きな空間を積み立てて考えるのではなく、それぞれの場所に多様な、居場所、空間を作るという考え方です。

C班は寄り添うというキーワードで、割とはっきりとしたゾーニングの意識が出ています。そのゾーニングを確保しつつ、イベントスペースでいろんなニーズに、フレキシブルに対応できるような場が必要ではないかという考え方だと思います。

D班は、繋がるきっかけづくりというキャッチフレーズが、面白いキーワードだなと見ておりました。来館者としていろんな人達が来たときに、利用者同士が見える見えない関係とかもコミュニケーションの一つになります。それによって、あの人たちこんなことやっているのかっていう気づきが得られることがあります。また、それによって本とか、展示物とかとの出会い、セレンディピティという話があるので、いろんな要素や人の行為がお互いにどう接触するのか見えるのかというような、発見とか気づきを誘発するようなものがこの思いの中にあるのかなと見ていました。

E班は、自分を豊かにしてくれるオアシスというキャッチフレーズです。来館する方々一人であったとしてもグループであったとしても、その時々で多様なニーズがあるということなので、そこに合致することができるような機能なりスペースなりがあるといいのではないかと読み取ったところでした。

この機能構成図を拝見したときに、その裏側にどのようなイメージや考え方があるのかなということで最後に少し意見を入れさせていただきました。

協議事項

1) 新図書館基本計画について

○平岡委員長

資料3をご説明いただきました。

協議事項としましては、この新図書館基本計画についての新図書館に求められる役割機能の整理等々、建築計画のところまで含めて資料3をご覧くださいご意見をいただければと思います。

○佐藤委員

今年図書館付近での車の事故が何件かあったので、駐車場と子どもの場所が隣接しているところが少し怖いなと思いました。

あと、全体的な話になるんで、ここで話すことではないのかもしれないですけど、この図書館と郷土資料館の間の道路に矢印はありますが、どのような人たちが通ることを想定していますか。

○事務局

地域住民の方は今でも通っていますし、観光客も、桜の時期だと、駅から通ってくることも想定はされるところです。

○佐藤委員

マップアプリで駅からマップすると、最短ルートはⅠ区の集会所のところを左に曲がっていくほうを選ぶので、どうなんだろうなと思いました。

もう一点ですが、建物の形は曲線になるイメージでしょうか。

○委託業者

具体的な建物の形については、基本設計の段階で決めていきます。今回お示しした図は曲線のようになっていますが、人の動線に合わせてイメージとして書いているものですので、実際には多角形になるかもしれませんし、アールがかかっているかもしれませんし、もしくはＬ型のような形になっているかもしれません。

また、新図書館としばたの郷土館の間の道の話ですが、私どもの考えとしては、ふるさと文化伝承館の裏手に有名な神社があったり、この細い道の先に昔の道が残っているなど、周辺には様々な地域資源がありますので、図書館だけでなくまち全体へ人の流れをつくっていくきっかけをつくれたらと考えております。もし現状この道はあまり人が歩くことがない道なのであれば、新図書館できた際にはこの道を使って町へ出かけて行くことも考えられるのではないかという意味合いもあり、この矢印を記載しています。

○玉淵委員

この道路は車が通れる道路なんでしょうか。

○事務局

すれ違いはできませんが車は通れます。

○玉淵委員

もし整備をしてたくさん車が通るといったときに、人の流れなどに対してはどうなのかなというちょっとした疑問があるので、たくさん車が通るのか人が通るのか、そこで、この道路を渡って人が行き来するっていうのがどうなのかっていうのはイメージですよね。

○委託業者

道路を廃止するというのは難しいと思いますが、車も通ることのできる道路ではありますが、実際にはそれほど交通量は多くはないのではないかと思います。今後の周辺道路の整備計画とどのように整合性をとっていくかということもありますが、例えば、この部分の舗装がアスファルトではなく、ベージュ系の舗装となって

いて歩道のようにになっているなどの手法も考えられます。

また、先行しているプレイスデザインワークショップの方でも、新図書館としばたの郷土館の和室の間を通るような動線を作って連携を高めていこうという話がありましたので、新図書館側の計画でもそういったことを踏まえて進めていきたいと思い、新図書館としばたの郷土館への矢印を描きました。

○平岡委員長

東の方にずっと伸びていくこの道ですね、この歩道がそのままＴ字のところまで繋がっていき神社のところにいきます。最初のプロポーザルのときの山下設計さんのご提案でも、ワークショップのポスターになったように、街全体のイメージ図があってそれが印象的だったというのもあり、私も学生を連れていくと船岡城址公園、しばたの郷土館を見てこの道を通って行って街中のいい景観を回っていきます。なので、先ほどここはポータルゾーンになるという話をしましたが、その役割としてここはすごく大事になるので、設計できる範囲で周辺の資源を有効に使って設計して行って欲しいなと思っておりました。

○玉淵委員

今ワークショップでいろいろな案が出ていますが、最終的に比較的コンパクトになるというお話も聞いているので、すべての意見を新図書館に盛り込むのは少し厳しいのかと思います。そういったときに、何を優先にしていくのかとかということがいずれ出てくるとはと思いますが、このあたりの進め方はどんな考えていらっしゃるのでしょうか。

○委託業者

ワークショップで出た意見をできるだけ反映するように検討しておりますが、完全に反映できているかということそうではありません。ただし、ご意見をそのまま直接的には反映できていなかったとしても、その背景にあるものを基にして、できるだけ意図を汲んだ形でこの図を作りました。この後のステップとしては、今日の会議の冒頭にお話が出ましたが、面積的にこれが実現できるのかといった話になっていくと思います。先ほど弊社からも話した通り、まだ面積の検証はできていないので、それぞれのスペースでどれぐらいの面積が必要かという点については、基本設計の段階で精査していこうと思っています。例えば、「町民の方々の本棚」という、丸で囲っている部分がありますが、これも本棚が１つなのか５つなのかで必要な面積は変わります。必ずしも大きなスペースがなくても実現できるアイデアがたくさんあると思っているので、我々としては、これは面積的に厳しいからこのアイデアはやめようということは出来るだけせずに、小さな面積だとしても、いただいた意見が反映できるような環境を作っておきたいと思っています。そういう作業を基本設計の中でやっていきたいと思っています。

また、先ほどから何回か意見が出ていますが、ワークショップの中でも新図書館の中ではなくてしばたの郷土館にあった方がよいという意見のあった機能もあるので、新図書館の計画と並行して、しばたの郷土館の改修でどこスペースに何を整備するのかという検討を進めていけるとよいと思っています。この辺りは柴田町さんでコントロールしていただいていることではありますが、しばたの郷土館に関する具体的な設計スケジュールと、新図書館の設計スケジュールをできるだけ整合させながら、機能連携が図れるようにできればよいと思っています。

○玉渕委員

連携するときの、お互い施設に対して、郷土館っていうのがどんなものなのかっていうのがちょっとわかるコーナーがあるとか、点ではなくて線で結ばれているような印象を出すと、いろんなことができるかなとは思っています。

○田中委員

できることならば取捨選択はしないようにしたいというようなお話を聞かせていただきました。資料の中で新図書館に関していろんなことが書いてありますが、機能があるということは、それぞれに人的サービスが必要になってきます。その分の人員は、今の図書館で働いている職員の数でそれをすべて賄えとお考えでしょうか。

○委託業者

まさにそういった話は柴田町と打ち合わせをしながら、人員が不足するかもしれない部分については、最初からできないからやめてしまうのではなく、現在お手伝いいただいているボランティアさんの力を借りながらやることができないか、また町民の方に参画していただくことができないかなど、実現する方法を考えていく必要があります。まだ竣工するまで時間があるので、そういったことの可能性も探りながら検討していかないといけないという話をしている段階です。

○田中委員

何をするにしても、対人のサービスになるので、AIとかICTの技術が進んでいく時代ではありますが、現有人員を増やすことは難しくても、減らすということは考えずにやっていただければなというふうに思いました。

○事務局

アドバイザーからも前回の委員会でお話しいただいていましたが、現在の司書の人数ですべてのサービスを網羅するというのは難しいと考えています。田中委員からAIの話が出ましたが、図書館の管理システムの中で、例えばICタグとかを導入して自動貸出機ですとか、それからセキュリティゲートですとか、それから蔵書

の点検とかも簡単にできるようになるシステムを導入することで、人員を増やさなくても、十分な図書館のサービスを網羅できるようにということは、同時に考えていく必要があると思っています。

○平岡 善浩

私も最後の全体のところで聞こうと思っていたんですけど、住民のご意見が色々出ていますけども、司書の方々にヒアリングとか、この案についてご意見をどのようにいただいていらっしゃるのかと思っていました。今お話があったボランティアの方々にご協力いただく、あるいは町民の皆様にご協力いただけるにしても、それに対してのマネジメントの時間とかコストかかるので、職員の方はそれに頼るとしても大変になると思います。

○事務局

図書館要覧をお手元にお配りさせていただきました。要覧の後ろから何ページ目に図書館ボランティアっていうのがございます。そもそも柴田町図書館で図書の配布や環境整備のボランティアの方ですとか図書の配架のボランティアの方ですとか、そういう方たちが今もいらっしゃるので、これから新しくボランティアの方を募集するというよりは、現在活動してくださっている方たちと新図書館の運営について相談させていただこうと考えていました。

○山崎アドバイザー

ワークショップから出た意見をまとめると、内容としてはいろいろ盛り込んでいると思います。町としては簡単に人を増やせるような状況ではないので、新図書館は現行の図書館より効率的に作らなくてははいけません。先ほど話が出たとおり、ボランティアさんに協力していただくにも打ち合わせが必要だし、育成が必要です。あるいは連携展示をやるにしても、当然打ち合わせが必要になります。今の図書館職員がもうどんどん外に出ていくんですね。そうすると中のところをどうするか問題が出てきて、結局中をしっかりとやって、外にも行きなさいっていうのは無理なわけです。ですから極限までに図書館構造や管理の部分というのを突き詰めてく必要があります。

私は全国の他の図書館でアドバイスをしているんですが、いまお話ししている問題はどの図書館でも出てきます。ICTでできることもありますし、それでもできないことも含めて、その全部を重点的に検討しなきゃいけないと思います。いくらいサービスがあっても、ただの空間では役に立たないので、そこは一番これからの基本計画・設計に反映していただきたいということで前回お話ししました。

○大槻副委員長

やっぱり図書館なので、司書さんの意見は非常に重要だと思います。実際に働い

ている人達だし、運営していく人たちですので。先ほど郷土館の話をしましたけど、実際に運営していくのは学芸員の人たちや職員さんなので、そういう方たちの意見をしっかりと聞いていかないと、将来的に困ることになってしまうと思うので、そういった専門職のご意見を伺う場と時間をぜひ設けていただきたいと思います。

○平岡委員長

今後、基本計画、基本設計のプロセスの中でそういった方々と意見交換をしながら進めてください。

○事務局

こちらの機能関係図を作るときもちろん司書が入って打ち合わせをさせていただいています。司書が働きやすい、目が届きやすいゾーニングを意識しています。山下設計の説明でこの点々の規模がそのままその大きさと割合じゃないので、機能としてここにあったらいいということで置かせていただいたということなんですけど。もちろん柴田町図書館の司書の意見も大きく入っています。なので、司書の意見を吸い上げてこちらの機能関係図を作っていただきますので、検討委員の皆さんにも実際にゾーニングを見ていただいて、ご意見等をこの場で言っていただけると、司書達のヒントになります。

○玉淵委員

運営のことは、ハードとセットにならざるをえないですねっていう話を前回したと思うんですが、まずは日常的な仕事量というのはどれぐらいなのかっていうことは見据えないといけないだろうなと思います。複数で図書館に来るような利用の仕方が結構あるので、利用者同士の交流があるような事業も考えていかなくتهはいけません。ただし、それも例えば月の第何木曜日はこういうことやりますとか、とにかく絞って、1つ1つ丁寧にやった結果、計画に対して大体網羅できるようになると思います。全部は急には無理だと思います。

ワークショップとか、企画を立ててファシリテーター的に舵を取るような司書さんと連携して調整をしていくコーディネーター的な立場の人が配置されると、可能性はぐっと広がるかなと思います。もうなるべく早めの段階から配置されるのが理想的ですけど、なかなか難しいですね。

いずれにしろ、難しいところもありつつ、可能性を生かしていく設計として、ハードとソフトもぜひ頑張っていただきたいなと思います。

また、ボランティアについてです。実は仙南地区はとてたくさんボランティアさんがいらっしゃいます。ボランティアさんは新しい施設で綺麗なところで活動していきたいっていう人が多いので、うちもボランティアさんが引き抜かれるとか考

えるんですけど、それは何か持ちつ持たれつで、計画的にお互いシェアする。もともとあるものをどのように工夫してシェアしていき、お互いが何か取り上げることなく、互いに協力し合いながら、いわゆる共生社会みたいなものでしょうけど、そうやって協力しながら、運営していくという姿が理想だと思います。

○平岡委員長

ボランティアさんも含めてそれをコーディネートする方とか、共有してくれる方とか、人材育成というところちょっとおこがましいですけども、そんなことをみんなでやっていく仕組みがあったほうがよさそうですね。今日は男澤さんがお休みだったので、ボランティアの話は詳しくは聞けなかったんですけども、もうちょっとボランティア活動の現在の状況とか、そういうことを聞けたかもしれないですね。

この要覧の9ページにあるような、学校図書館の支援とか槻木分室の利用促進とか、新図書館建設以外のところもかなり大事な話なので、そっちがおろそかになるとそれとまたちょっとまずいですし、そのところはバランスをとるのか、どういふふうに協力者を育てたりだとか、そういったところは、皆様方のご意見ですね、その通りだなと思っておりました。

山下設計さんの方からは、町民あるいは団体の皆様方との協働の方法、周辺施設との連携方法とか、柴田町ならではのコンテンツのアイディアのテーマ展示とか、どんな人たちにどんなメッセージを出せば来ていただけるような施設になるのかとかですね。そういうご意見がもしあればということが問いかけとして私のところに来ているところでしたが、委員の皆様方から何かあればお願いします。

○佐藤 祥多

NPO 法人余白では、まちづくり推進センター”ゆる.ぷら”という町の施設の運営委託を受託していますが、運営していて最近思うのが、今の60代70代の方は生涯学習とか盛んにやってきた方なんだろうなと思うんですけど、そういう方たちがコロナで大分少なくなってきました。ゆる.ぷらで2週間程度の区切りでギャラリー展示ができるスペースを設けていますが、5、6年前とかは、なるべく埋まっている状態だったんですけど、今は月1回埋まっていたらいいぐらいになってきている現状があります。

理由としては、ゆる.ぷら自体が展示を専門としているスペースじゃないので、ほかの展示スペースと比べて格が低いと感じているようで、私たちは芸術性の高い作品だからゆる.ぷらでは展示できないという方もいらっしゃるんですけど、現状として、市民活動や生涯学習系のサークルは最近結構トラブルが起きてきていて、仲が悪くなっていることが、相談でよく聞きます。なので、あの人の意見が気に食わないからもうサークルに参加したくないですみたいなことで、各団体も悩んでいるということを最近よく聞きます。

何が言いたいかっていうと、大分ギャラリーの利用が少なくなっている現状なの

で、交流スペースがここですよ、交流してくださいって言っても誰も交流しないと思いますね。この町の町民の特質上は、何かきっかけだったり共通の何かがないと、どうしても能動的に行動するのが難しかったりするので、テーマだったり、共通のものとか用意していくっていうのが必要になると思います。ゆる.ぶらは社協さんと協力をしていて、お互いにどういうサークルがあってどういうボランティアさんがいるのかっていうのは、すごいやりとりをさせてもらっています。図書館さんにも社協さんが顔を出していると思います。

○田中委員

ギャラリー展示云々という話が出ましたが、そういうエントランスというようなものがもしできれば、展示をすると意外と人が集まります。私ども宮城県図書館1階はエントランスになっていて、そこでギャラリー展示やっています。さまざまなギャラリー展示、いわゆるポスター展示をやっています。どういうところのポスターを展示するかといいますと、自衛隊や海上保安庁にお願いしています。自衛隊は、いわゆる全国規模にはなるんですが、要は図書館の近くに大和駐屯地があるので、そこの担当者の方が来て、ぜひやらせてくださいとお話があり、展示をしています。柴田町の場合は船岡駐屯地がありますから声をかけやすいと思います。あとは、県庁の各課、例えば農林水産部の水産系の課が、みやぎお魚の日っていうのを制定して、ポスターを作ったからその展示をしたり、そういうのを1ヶ月ぐらいいやっています。県庁の各課にはポスターがありましたらどうぞ県図書館に連絡をくださいと連絡します。そうすると、意外と連絡が来ます。なので、柴田町の新図書館にエントランスを作って、ポスター展示できるかもれないとなれば、社協さんもそうですし、あとは商工会、船岡駐屯地、あるいは仙台大学もあります。そういうところ身近なところに声をかけて、ポスター展示をやっていくということができると思います。あわせて図書館なので、それに関する載っている本を展示し、貸し出すことで、理解を深めるような展示ができます。

今まで一番面白かったのは、海上保安本部の展示でした。仙台国際センターで防災フォーラムっていうのがありまして、私ども宮城県図書館も毎年そこにブースを立てているんですが、たまたま隣が第二管区海上保安本部さんのスペースでした。たまたまそこで担当者が名刺交換をして、図書館で展示を募集していますという話をしたら、二管本部さんの方では是非ともやらせてほしいと話があり、二管本部さんが持っている巡視船の10分の1の模型をもって来てもらいまして展示しました。ちょうど夏休み期間中だったので、多くの子どもたちが集まって、その後ろにお父さんお母さんたちみんなスマホで撮っていました。これが図書館のPRにもなったし、二管本部さんのPRにもなってよかったって感じでした。ですから、今後そのような新しい展示をやりたいってなったときには、いろんなとこに声をかけると意外とやらせてほしいところはあると思います。なおかつ図書館で、それに関する資料を集めて展示をするというのもいい企画になると思います。新しい図書館ができたときは

ぜひ参考にしていいただければと思います。

○平岡委員長

今テーマ展示のコンテンツのアイディアについて田中さんからすごく良い示唆をいただいたかと思います。

○事務局

関連して、事務局からしばたの郷土館の再生整備計画の内容について簡単に説明申し上げます。先ほど、南側のふるさと文化伝承館のあり方というところについて、委員の皆さまからご意見をいただいております。先ほど設計のお話とかもあったんですけども、現段階で計画の詳細については検討しているところで、思源閣については、現在農村環境改善センターにある、伊達政宗騎馬像を移設や町内の歴史についての展示コーナーとかを設置するような計画とか、あと先般実施した社会実験等で非常に満足度が高く、プレイスデザインワークショップの方からも意見をいただいていた屋内子供遊び場を検討している状況でございます。また、多くご意見をいただいているのは郷土資料です。そこの充実、すみ分けというところを非常に意識しながらやっていかなければならないというご意見もいただいているところでございます。あと、先ほどお話しがありましたが、まちづくりの機能についても視野に入れながら事業の計画を立てているということをお伝えいたします。

○平岡委員長

そろそろ時間ですが、山崎先生から何かあればお願いします。

○山崎アドバイザー

全体の感想を述べます。

こういう委員会の中で、議題になることがたくさんありますが、基本構想というものを昨年度まとめて、それがベースになっているということは決して忘れてはいけないのかなと思います。ワークショップをやることも、意見を聞くこともとも結構ですけども、住民アンケート１０００人というある程度住民の考えを踏まえた上で５つの方針を決めて、それを踏まえてこの今のワークショップとか検討委員会をやっています。ですから、こういうワークショップの皆さんの考えとか、住民の考えとか、この検討委員会ってやっぱり構想の中に入ってなければいけません。ずっと考えていくと、基本構想５つあった中で、おそらく幾つかは住民の考え方が出てきていないと思います。つまり、例えば本来持っているその図書館としての基本的な機能、本を買って整理して提供するっていう部分はあまり出てきていません。これしょうがないことだと思います。住民の方から見れば、そこは今のところの延長だと考えるからです。ただ、決してそれは忘れてはいけないことで、この基本計画をまとめる際に、例えばバックヤードには書庫が必要で、それを提供するた

めのスペースも必要です。非常に大事なところなので、ここはやはりちゃんと考えていかなければいけないと思いました。

新図書館の延床面積は、当初の計画より3分の1以上を削らなければいけない中で、様々な機能を小さくしていくのがいいのか、多目的なスペースで担うのがいいのかという議論が必要です。次回はぜひそういうことも含めて、外部との関係、全体の計画、役割分担などもあると思うので、そういった点も考えていただければと思います。

展示の話がかなり出てきましたが、先ほども申し上げましたが、提示はすごく手間がかかります。外に丸投げしても丸投げにはならないです。例えばいろんなところに行ってお願ひしたり名刺交換したりして初めて展示ができます。つまり時間がかかります。それまでの間はどうかという、やはり職員がやらなくてははいけません。展示スペースが空いているわけにいかないの、あまり専用スペースを作ってしまうのも危険だなと思いました。多様に使えるような施設の中でうまく展示をやるとか考えていかないと、専用スペースの展示というと博物館になってしまっ図書館ではなくなってしまいます。そこだけ注意していただければいいのかなと思いました。ワークショップの皆さんの意見はすごく大切ですけど、冒頭に佐藤委員からもありましたが、1500平米でできるのかという、そもそも非常に厳しいわけです。ですから、先ほど山下設計からお話ありましたが、書棚の中でも展示することができます。従来の書架の一部を展示として変えてもいいわけなので、専用かどうかというのはもう少し考えて欲しいと思いました。

もう1点です。運営していく上で、空間があればいいということでは決していないので、空間で何かをするためには、皆さんからも意見が出ていましたが人がいます。当然ボランティアに協力いただくにしても、司書がやるにしても全部人ですから、いきなりできるわけではありません。ですので、ぜひオープンまでにそういう関係づくりを今のうちに進めて欲しいと思います。

○平岡 善浩

私の方からも少しだけお話しいたします。今山崎先生のお話からもありました通り、基本計画を策定するにあたり、面積なり冊数なりのスペックの部分がある程度見えてくると、もう少し取舍選択のところがはっきりしてくると思います。今日の議論にもあった通り、いろんなことを盛り込んですべてを積み上げてやったほうがいいのか、また別なアプローチで議論したほうがいいのか、そういうところがポイントなんだろうということだと思います。

基本計画の目次をいただいておりますが、大事なポイントの1つが、地域資源の把握の章があります。基本構想策定のときも、この図書館のところで把握すべき地域資源とは何だろうっていった議論がありまして、例えば先ほどでた道がどのようにまちに繋がっていくのかってということも地域資源の1つではあると思いますし、人的な地域資源とかそういうのもあると思います。そもそもコミュニティーが持って

いる地域資源ってというのがここに関わってくるのか等々、いろいろあると思います。そういったところについては、きちんと調査をして、ここに関わってくるようなものについてですね、記述が欲しいなというふうに思っていました。

また、図書館を核としたまちづくり方針という章があり、町民参加の運営の仕組み、周辺関連施設の連携方針という内容で、今日の委員会で人づくりの話もでしたが、それは町の方やこういった会議、ワークショップ等、いろんな意見を聞いていただいて、情報を集めるのも設計事務所だけでは難しいかもしれないので、役場の職員の皆さん方からもご協力いただいてですね、いろんな情報を山下設計さんに伝えていただければ思っていました。

それで議事について、以上で終了したいと思います。それでは、委員の皆様ご協力どうもありがとうございました。

5 連絡事項

事務局より検討委員会のスケジュールについての確認

6 閉会